

令和５年度第１回長浜市支え合いの地域づくり推進委員会 議事録

日時：令和５年６月３０日（金）午後２時

場所：長浜市役所 １階多目的ルーム１～４

<出席者>

（委員）藤森忠夫、布施みさ恵、伊吹清栄、吉村三津子、茂見ミチヨ、北川奈央、中川弘之、
藤田美恵子、山下憲昭、橋本文男、三段崎静子、伊藤英司、安原秀男、山岡伸次

（敬称略）以上 14 人

（地域包括支援センター）南長浜地域包括支援センター管理者 北川

神照郷里地域包括支援センター管理者 川崎

浅井びわ虎姫地域包括支援センター管理者 丸岡

湖北高月地域包括支援センター管理者 古脇

木之本余呉西浅井地域包括支援センター保健師 居川

以上 5 人

<欠席者>

松井善典

（敬称略）以上 1 人

<傍聴者>

なし

次第：

１．開会

２．報告・説明事項

- ・支え合いの地域づくり推進委員会とは
- ・第９期ゴールドプランながはま２１ 策定スケジュール
- ・令和４年度 生活支援体制整備事業実績報告
- ・生活支援コーディネーター 令和４年度実績報告、令和５年度事業計画

３．グループワーク

テーマ：住み慣れた地域で明るく元気に暮らしていくために

1. 開会

(長寿推進課長あいさつ) (省略)

(事務局)

- ・配布資料の確認
- ・本日の日程について説明
- ・委員交代(藤森委員、布施委員、中川委員、橋本委員のご就任の説明)
- ・委員15人中14名出席で過半数の出席により会議は成立したことを確認
- ・傍聴者なし

(委員長ご紹介)

昨年度に引き続き、安原秀男様に委員長をお願いいたします。

(委員長あいさつ)

本委員会で、皆様と共に知恵を出し合っていただきまして、お力添えをいただき、地域の施策を考えていきたいと思いますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

2. 報告・説明事項

(委員長)

本委員会では、地域で元気に生活し続けられる、また、地域で活躍できる地域づくりを進めるために議論をする場であると思います。

これからの支え合いの地域づくりに向けて、委員の皆様には各分野の代表として、活発にご意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

まずは事務局から、支え合いの地域づくり推進委員会、長浜市の高齢者の状況に続き、山岡委員から活動の報告をいただきます。それでは、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

支え合いの地域づくり推進委員会とは・・・資料①により説明

第9期ゴールドプランながはま21 策定スケジュール・・・資料②により説明

一般介護予防事業の主な取組み・・・資料③により説明

自主グループの活動状況調査アンケート結果(令和4年度実施)・・・資料④により説明

(委員)

長浜市生活支援活動の紹介・・・資料により報告

(委員長)

只今の事務局説明、山岡委員からのご説明に関して、ご質問等ございましたらお願いいたします。

ー特になしー

3. グループワーク

(委員長)

では、次に、グループワークに入りたいと思います。

●大往生ゲーム

(長浜市社会福祉協議会職員)

大往生ゲームの説明。

ー以降、大往生ゲームの実施ー

(長浜市社会福祉協議会職員)

ゲームを体験していただいて、いかがでしたでしょうか。最初に人生の目標を設定していただきましたが、目標を達成できそうな人生でしたでしょうか。大切にしたいと思っていたことも捨てざるを得ないこともあったかと思います。

皆さんの大切と思うことと、自分が大切と思うことが違っていることもあったかと思います。それぞれ、皆さん、価値観も違うと思いますし、そういったことを感じていただけたのではないかとも思います。

今回 60 歳からの人生の疑似体験をしていただいたのですが、思わぬところで身体機能を失ったり、つながりが途絶えてしまったりということもあったかと思います。歳をとるということは、喪失体験も避けて通れない。そのような中で、自分らしく生きていけるといいのではないかということを感じて頂けたのではないのでしょうか。これからの人生をどのように過ごしたいか、また、今からできることを考えるきっかけにいただけたらと思います。

皆様の近所の方、周りの方を思い浮かべていただきたいと思います。その方の思いに少し寄り添っていただけたら幸いです。困っておられることがあったら、地域でできることを、皆さんと一緒に考えることができればと思います。

以上で、ゲームを終わらせていただきます。

●グループ討議

(委員長)

では、次にグループでの討論をお願いします。全体のテーマとしては、住み慣れた地域で明るく元気に暮らしていくためにということです。

グループごとにテーマを設けさせていただきたいと思います。

(各グループのテーマ設定)

討論の進め方としては、それぞれのテーマで現状を共有していただき、いいことに関しては、それを継続していくためにできること、課題に関しては、それを解決に向けてできそうな取組みを考えるといった流れで討論をしていただければと思います。

ー以降、各グループでの討議ー

(各グループの成果発表)

●Aグループ（テーマ：買い物／発表者：委員）

食料品を何とかしようという発想になり、西浅井、余呉、びわ、市街地、神照のメンバーで話し合ったところ、市街地は、買い物に対する支援は一切ないという状況でした。住民の間では、病院も近い、買い物場所も多くあるので、なんとかやっているだろうという勝手な思い込みであったことに気づきました。

西浅井や余呉は、買い物が難しいと思っていたが、おでかけ号やコープの利用など、十分とは言えない中でも、いろんな手立てを考えておられる。一方、市街地とびわは中途半端な状況です。びわは、スーパーもなく、コンビニもひとつ閉鎖となり、大変不便を感じているにも関わらず、手立てがないということで、地域差が大きくなっているということに気づきました。

また、農業をしている人は、肥料など重いものをどうするのかということで、注文して、購入しても、もって帰ることができないということもありましたので、荷物だけ運んでくれる制度があればという話もできました。

本日、この会を通じて気づくことも多く、参考になりました。

●Bグループ（テーマ：通院／発表者：地域包括管理者）

まず、通院ができるように、元気でいられるよう健康づくりを頑張ろうという、歩けること、元気でいることを目標にしようということがありました。

そして、実際に動けなくなった時にどうするか。介護サービスのタクシー代にしても、かなり高くなる場合もあり、サービスに頼むということも難しいということもあります。では、実際にどうするかということにつきまして、余呉では、ボランティアで元気かいさんが受診の送迎をしていたっていますが、支援者と受援者が同じ年代層であり、ここにも課題があるという話がありました。

受診する人にもばらつきがあり、解決策の一つとして、先生の通う手間を省く意味でも、先生の往診日に合わせて、同一日に、皆さんを集めて受診していただくという話もでていました。

また、動けなくなったとき、診断書を書いてくれる医者が身近にいないという話もあり、訪問してくれる医者や訪問看護の充実、主治医との連携があればという話もありました。

●Cグループ（テーマ：見守り／発表者：委員）

十分な見守りができていないというのが現状です。近所どうしでいい助け合いができていないという状況も出てきています。また、今後は、未婚の男性や、一人暮らしの方をどう支えていくのか、という意見も出ました。

では、これから見守りをどうするのか。一人に背負わせるのではなく、みんなで問題点を共有し、自治会単位で見守っていくのがいいのではないかという意見が出ました。また、活動されている福祉委員さんから自治会に問題点を提起してはどうかという意見もありました。

また、情報交換の場を楽しくする工夫が、見守りに取り組んでいく上で、大切ではないかという意見もありました。

高齢者だけでなく、小さい子ども、母子家庭等に対する見守りも大切ではないかという話があり、結論として、高齢者だけでなく、子どもも親も一緒に見守っていく必要があるという結論になりました。

●Dグループ（テーマ：移動／発表者：委員）

地域での買い物支援、通院支援などでは、地域の身近な人に送ってもらえるという安心感もあって送迎をよく利用しているという話もありました。遠くに移動するときは、公共交通や乗り合いタクシーを利用することになりますが、80歳以上の人は、そもそも、乗り場までの移動が大変で、ドアツードアでないといつらいところがあるという意見があり、地域によっては、帰りに荷物がある場合は、家の前まで送ってくれる制度があればという話もありました。

下肢が不自由になると、社会参加や交流がしにくくなるという課題に対して、今までは当事者が移動するという感覚でしたが、逆にサロンや買い物に来てもらうというところではどうかという話もありました。現在、ホームサポートや移動販売、ヘルパー、宅配、銀行（員）、地域によっては人気のある見守りも兼ねたおしゃべりのボランティア団体などにきていただいています、サロンにしても、行けないときには来てもらう。移動図書館も、昔はあったが、最近は見かけないという話もありました。

結論として、歩いていけるうちに、動けるうちに、コミュニケーションを取っておくことで、不自由になったときも社会参加がしやすくなるのではないかということになりました。ただ、女性はコミュニケーションを取りやすいが、男性は苦手な方が多いという課題も出ていました。

（委員長）

広大な長浜市の中を移動する、買い物に行く、医者に行く、多くの壁があり、今後の課題だと思います。長浜市では、独居の方とか高齢者の世帯が増加していきます。その中で、移動や見守りに関して不安に思う方が、今後も増加することが考えられます。今後、このような課題に対して、どのように支援をしていくか、考えていく必要があると思います。市内においても、買い物支援など、慣れ親しんだ人同士で、助け合う仕組みづくりも行っている団体もあります。

現在、市では、第9期ゴールドプランの策定に向けて検討を行っていますが、このような意見も踏まえ、計画に反映させていただきたいと思います。

今回話し合っていただきました内容につきましては、地域にお戻りになられて、地域住民の方々とも地域の取組みとしてご検討いただければ幸いに存じます。

4. 総括

（委員）

真宗は湖北地域に根ざした宗教、みんなの宗教。生きること、死ぬことをみんなで支え合って生きていくというのが真宗です。大往生ゲームはネガティブなことを楽しく話し合えることに良さを感じました。

グループワークにあった4つのテーマでいうと、見守りが基本。普段、挨拶ができるような関係ができて、そこで見守りが成立する。それが、なかなかできていない地域もある。また、お年寄りが歩いて通える範囲は500mまでといわれているが、それでは買い物のできない地域もある。さらに、500m以内であっても、購入したものを持って帰ることができない。いろいろと気づきのあるワークでした。

支え合いの委員会は、協議体の第1層であり、その目標とするところは、市民への呼びかけを果

たしていかなければならない。これからは、もっと仕掛けていくことになるし、今日のご意見が第9期ゴールドプランにもつながっていくことになる。加えて、将来的には、高齢者、しょうがい者、子どもなど、みんなを地域でみていくことになろう。経済状況が厳しい中で、どう踏ん張るのか、市民に問われる時がくると思う。高齢者もしょうがい者も子供も、地域の一員として支え合っていくというのが目標であろう。自分たちのできることを、みんなで考えていきたいと思います。

(委員長)

最後に委員の皆さまにお願いがございます。日頃から、それぞれのお立場で情報を収集し、また、学習をしていただきまして、地域を支えるための課題、検討につきまして、次回以降もご協力いただきますよう、お願いします。

5. その他

(事務局連絡)

研修会視察の件(第5回地域共生社会推進全国サミット in とよた)が10月12.13日に開催されます。

以上